

江源茂鑑

三



部	地
番号	125
部	地
番号	125
部	地
番号	125

寄贈

贈	寄
明治廿貳年以降本校卒業生三百十八名	
大正	七年
	六月
	八日

江源武鑑卷第三

今天文十^辛年

大四正月

朔日ヨリ十五日ニ至テ御作法例年ノコトニ

日記ニノスルニ及ハス

十八日竹生嶋造營アルヘキヨシニテ今日

後藤但馬守ヲ彼嶋ヘ遣使テ舊例ヲ糾シ任

先例造營有ヘキノヨシナリ

廿二日和田源内兵衛尉貞政カ方ヨリ天台

江源武鑑記
印

座主慈鎮和尚ノ自誅トテ彼手跡ノ短尺ヲ
屋形ニ進獻ス哥曰

ワレノ山有明ノ月父タリ來テワカタツソラモ上ニソ佳
屋形甚御自愛後ニ是ハ山門ノ重寶ナルヘシ
トテ正覺僧正ヘ送り玉フ則僧正是ヲ山上
ノ傳教大師ノ御廟ニユメラルノヨシナリ
廿四日先年勸請アリシ比良ノ愛岩ヘ屋形
今日御社參箕作定頼同義賢御同船ニテ木
戸ノ城ニ移り玉フ今日山工御參廿五日ニ

江東ニ歸王フ

二月

八日八幡ノ宮造管ノ義ヲ被仰付進藤伊賀
守貞方澤田兵部少輔重宗奉行ス

右此八幡ハ應神天皇六年ニ江洲ニ幸シテ
御歌アリ明ル七年遷幸天皇御自筆ノ卷物
アリ然ニ當家ノ御先祖佐々木大明神天曆

十年五月五日初テ當國ニ住居シ玉フヨリ
此方此八幡ヲ氏ノ神ト崇メ玉フナリ近江八

幡フナ上ウヘ此コノ御事ミコトノコトナリ委カクハ彼官カノミヤノ傳記デンキニアリ
十七日フホツ大津オホツニ三面ミタマ一躰イタノ子コヲ産ウマス鳴聲ナリコエ庶シカ
ノ如トシシ前代ゼンダイ未聞ミキコノ義ミチナリ
廿一日カミフ蒲生カミフノ河カハニ大二尺オホニサ四方ヨナノ物モノアリ丸マルク
シテ鳥トリノカイコトニコトナラス屋形ヤカテ記録キヨク所トコロノ
面オモ々カヲ呼ヨテ古フルキ年トシ記キヲ勘カンヘサセ玉タマフニ昔ソノ日カ
推古スイコ天皇テンノウ廿七年ニシチニシ三月ミチノカ四日ヨリ近江ニシ國クニ蒲生カミフノ河
ニ有アリ物形モノカタチ如トシ人ヒトニテ眼鼻メノハナナシト古コ記キニアリ
屋形ヤカテ聞キ召メ今度イマタモ委イ細サバニ記キセトテ則スナハチ日記ニ

トメ玉フ

三月

三日ミチノカ佐々木ササキ宮ミヤ祭礼サマヒ例年レイネンノコトシ屋形ヤカテ御病氣ミヤノヤミ
ニヨツテ社シヤ参サンノ義ミチナシ御曹子ミヤノサウジ御一門ミヤノイツクノ面
々カ社シヤ参サン同日ツクシ觀音城カンオンノシロニテ御一門ミヤノイツクノ面々オモカ曲水マクヰ
ノ宴エンアリ
十日トウジツ西ニシ近江ニシノノ鼠ネズミ東ヒガシ近江ニシノニ移ウツルル屋形ヤカテ古コ記キヲ
見玉ミタマフニ天智テンチ天皇テンノウ五年イツゴニ京ミヤコノ鼠ネズミ向ムカヒ江州ニシノ移ウツル
同六年ドウゴクニニ終ツクシニ都ミヤコヲウツサレテ志賀シカ郡ノ大津オホツニ

住玉フトアリ屋形甚ツ、シミアリ
廿四日伊吹山ヨリ三頭一身ノ龜ヲ獻ス無
極ト云易者ニ是ヲト占ヲ以テ勘ヘサセ玉フ
ニ無極カ云ク今年ノ内ニ御曹子生産アル
ヘシ後ニ江州三ツニワレ嫡庶ノ争論アルヘシ
ト云屋形誰有テカ如此ナラントテ御心ニカケ
玉ハス國人甚アヤフメリ

四月

八日巳刻屋形ノ御前御平産若君御誕生

御母ハ將軍義晴公ノ御長女ナリ
九日江州ノ御一門并四十六人ノ旗頭ノ面
々太刀下腰ヲ以テ當御曹子ニ進獻ス
十日今日京極高秀ヨリ重代虎御前ト云太
刀ヲ御曹子ニ被獻昨日モ御一門ノ内ニ入
テ太刀一腰ヲ獻今日又如此ニヲヨフ
十四日御曹子七夜ニ當ル故ニ今日佐々木
ノ御社ニ社參供奉ノ次第多ニヨツテ日記ニ
ノセス

十六日八幡宮へ屋形御同道ニテ社參彼ノ
宮中ニテ御曹子御名ヲツケラル目賀多宮
中參テ御曹子ノ御髮ヲカキ上ル彼宮ノ祝
權守頼武御幣ヲ持來テ御曹子ノ頭ニサ、ク
即坐ニ御名ヲ飛龍御曹子ト祝シ奉ル
佐々木ノ御代々家嫡ニ生レ玉フ人ハ皆佐
々木大明神生レカハリク玉フヘキト御誌宣
アルトイヘハ代々皆佐々木ノ御社ニテ家嫡
ノ御曹子ヲハ御名ヲハツテ玉フニ今度ハ

例ヲカヘ玉フ事如何カアルヘキト國人甚
アヤフメリ

元日公方ヨリ上野丹後守晴時ヲ御使トシテ
今度御曹子誕生ノ御祝トシテ觀音城ニ來
着ス屋形ノ御前へ綾五百卷白銀千枚公方
代々ノ御重寶ノ藥ニ延命久保散ト云御藥
ヲ送リ玉フ次ニ御夕ハフレノ御歌アリ
二千ハタニ孫ニハ今ソ近江千ノ國モタカニ限リアラフ
御曹子ハ六万歳ト云御太刀ヲ下レ玉フ

廿八日雲州ノ辰子左衛門督ヨリ須佐兵部
少輔光綱ヲ以テ今度御曹子御誕生ヲ祝ヒ
テ三澤丸ト云太刀并ニ伯耆栗毛ト云名馬
ヲ屋形ニ献ス

五月

二日高嶋ノ横山伊豫入道久徳卒ス行年九
十七屋形甚カナシ三玉フ此入道ハ屋形五代
ノ間ヲ奉公シタル翁ナリ

五日佐々木御社祭礼當年ハ屋形ノ御前ヨリ

金銀ノ銚ヲ被渡五百人ノ童子一ヤウニ金ノ
籠ヲカツキワタル是ハ當御曹子御誕生ノ御
願成就ノ義ト見ヘタリ

七日土山ノ田村大明神大破ニ及フ依之彼
宮ノ神主權ノ太夫重治今日進藤兵部少輔
ヲ以テ彼宮ノ由來ヲ書文ニ作テ言上ス屋
形聞召造管ノ義ヲ進藤ニ被仰付土山ノ左
ヲ社領ニ付ラル

十日土山谷ノ堂蟹ノ石堂ヲ建ラレ舊跡ヲハ

少分トイヘ尺委細ニ夕、シテ取立玉ヲ蟹ノ由
來多ニ依テ日記ニ書ス
十五日當家ノ御先祖敦實親王自ラキサ三
玉ヲ法鉢ノ八幡ノ御影御代々ノ重寶ニテ
コレアルヲ屋形何ト思召アリテカ今日八幡
ノ宮中ニ納メ玉フ
右ノ御影ハ延喜ノ勅定ニ依テ敦實王作り
玉フ其鉢御法鉢ノアリサニテ日輪ヲ戴キ
玉フ御長一尺二寸ナリ

廿一日淺井郡中枝ノ庄ニ慈惠僧正ノ御影
堂ヲ建立シ玉フ淺井下野守祐政奉行ス
此僧正ヲ母懷胎ノ時海中ニ坐テ天上ニ向フ
處ニ日光來テ懷中ニ入ト見テ生リ慈惠正
夕日天子ノ再誕ナリト云山門三大師トシ
ニテ云勅意ノ義ハナニ慈惠ハ江州淺井郡
物氏ノ女ノ子ナリ
廿六日駒井伊賀守貞勝卒ス四十九歳遺物
ニ駒井ノ蜘蛛太刀ト云太刀ヲ屋形ニ獻ス義

實公甚ヲレ三王フ

十六太

八

四

十

六月

廿

日

江東

二

二月屋形上洛公方御不例ノ義ニ依テ五奉

行ノ外供奉セヌ同十日ニ江東ニ歸坐レ玉フ

廿日今日武佐ヨリ言上ス子細ハ地三四尺

或一丈ヨリ下ニ木ノ葉枝ノ朽タルヲ堀出ス

希代ノ事ナリトテ數箇所堀カヘレ見ニ何レ

ノ地ニモ如此則堀所ノ物ヲ獻スルニ黒ク朽

タル木葉ノカタニリタルナリ屋形希代ノ事

ナリトテ國ノ古キ日記ヲ開キ見玉フニ

彼記曰景行六十年十月帝甚有惱事依之諸

天祈病惱終無其驗是一覺云有占者命彼一

覺曰當國當東有大木此木甚帝有歎早此木

被退治者帝病惱令平治云依之此木伐毎夜

伐所木如本成終無盡然而彼覺召問伐所木

屑毎日燒之果盡云我者彼木歎對葛數年爭

威久其志今帝差向云即時如搔消失彼如言

行燒木屑及毎日終七十余日彼木倒此木枝

葉九里四方盛木太數丈依之帝病惱平治即
彼木有郡号栗本郡栗木巢不實云終同年十
一月初七日景行天皇崩志賀郡高穴德宮葬
云云
屋形此記ヲ見玉フテ扱古昔ニ其調アリ如
此栗本ノ郡ニ不限野湏蒲生坂田ノ郡ニモ
アルヘシトテホラセ玉フニ何レノ郡ニモアリ
國人是ヲスクモト名ケテ今ニ至テ玉中ヨリ
農業ノ暇ニハ是ヲトツテ用ユ

十五 七月

二日志賀郡雄琴里一宮ヲ建立是ハ昔日成
務天皇景行天皇ノ御禪ヲウケ玉ヒ成務元
年辛未正月七日即位アツテ此里ニヲワレ
玉フ彼舊跡ヲ今日改ラレテ如此建立ノ義
アリ

七日義賢ノ御館ヨリ出火シテ旗頭ノ屋敷
十二間寺門三箇所焼失ス
十日洪水江州海邊ノ在々水ニヲホル里數

多アリ

十五日斯波義宗逝去ノヨシ告來ル

廿八日屋形并箕作義賢八幡山義昌京極ノ

亭ニ移玉ヲ廿九日觀音城工屋形歸城

八月

朔日佐々木御社臨時ノ祭礼アリ

今日公方御上使上野豊後守晴長江東ニ來

著ス是ハ上勾ノ御所普請ノ義ニ依テ如此

十五日將軍義晴公江州志賀郡上坂本ニ出

奔ス屋形天下ニカヲ合同月晦日ニ公方上

洛ヲ十サシメ玉フ供奉之次第多ニ依テ不記

九月

三日屋形上洛今宵公方ヨリ御上使アリ上

野形部大輔六角ノ御館ニ來テ上意ノ旨ヲ

述フ去ル永正八年舟岡山合戰ヨリ同十年

山科合戰大永六年坂本合戰享祿元年九月

江州朽木合戰今度坂本下戰ニ至テ都テ五

度江州ヨリ天下ニカヲ合玉フ事實大悦不

斜依之北陸道七箇國ノ官領職官權中納言
位三位ニ任セラルヘキヨシナリ屋形甚辭シ
玉フ雖然達テ被任ヘキヨシナレハ屋形公方
ノ御心ニ任玉フ公方ヨリ此義禁裏ニ奏シ
玉フニ内ヨリノ玉フニ未天下ノ武將タニ從
二位内大臣ナルニ大功アレハトテ諸候ヲ三
位權中納言ニテ可任舊記ニナシトテ此義
ヲウケ玉ハスサレトモ將軍仰出玉フ事ナレ
禁裏ノ口宣案ナシトテモクルシカラレトテ

押テ義實公ヲ近江中納言ト仰下玉フ北陸
道官領ノ事ハ武將ノ御ニ、ニモナトカナカ
ラニ既ニ官位ニテ將軍ノマ、ニ成行事トテ
古實ノ公家ハナケキ玉フトナリ
同光一日公方雅意ニ渡リ玉ヒテ内ノ御事
他ニナシ玉ヘハ諸卿評義有テ先將軍ノ望ヲ
モ叶ヘ玉テコソ朝庭ノ御政モタ、メトテ今光
一日ニ至テ内ヨリ勅意有テ屋形ヲ近江權
中納言可任トナリ今更ニ望叶玉ヘハトテ

用ナシトテ綸旨ヲハ將軍ヨリ三條大納言
ノ御方ニテカヘサレケル依之江州六中納言
ノ綸旨不來ナリ屋形ハ公方ノ掣トシテ殊
ニ天下ノ事若君幼少ノ故只此人ノ三頼玉
フ故如此ナリ屋形ハモトハ四品ノ宰相ニテ
ヲワシケル此官位サヘ武將ノ外ニハ今ノ
天下ニ變ヘル人ナシ家將軍ノ智勇其上度
々ノ忠戰ナレハト公方ノ家ノ面々ハ申合ル
ト云云

大體十月

十二日屋形伯父大原中務大輔高保ノ息高
方卒ス

十九日午刻ヨリ虚空ニ香レキニヲヒアツテ

同日酉刻ニヤム

廿一日大洪水雷鏢クシテ箕作ノ義賢ノ御

館ニ落テ殿門多焼失スサウ人七人爲雷ニ

死ス

十一月

七日高嶋ノ新庄伊賀守實頼ト大野木加賀
守秀資ト所領サカイノ争論ニ及テ今日言
上ス大野木非公事ニ定テ論所ノ地ヲ新庄
ニ玉ル大野木
十三日高嶋八人衆ヨリ言上ス大野木秀資
土民ニ申付テ新庄カ所領ト大野木カ地ノ
境ニ大キナル堤ヲツクツク所新庄カ地ニ過半
カ、リ又レハ新庄カ百姓等ユレヲ制スル處ニ
大野木カ家人多出テ新庄カ地ノ百姓數十

人ウチフセ又依之新庄居城ヲ立テ既ニ大野
木カ城ニ寄セ及合戦郡内ノ面々寄合先ヲ
サヘラキ又早ク可及御下知カト言上ス屋形
甚不與ニテ後藤十五郎後假馬守云ヲ彼地ニ
ツカハシ雙方共觀音城ニ召寄テ今十四日
大野木秀資ヲハ箕作ノ義賢ヘアツケ玉ヒ
新庄ヲハ池田豊後守實政ニアツケラル
十八日大野木秀資切腹ス子兵内後土佐守ト云
ヲハ助命ニテ義賢ヘツカハサル

廿八日新庄被召出屋形仰玉ヲニ新庄義年
來人武功ニハ似ス大野木ユトキノ犯人ニ
ラドリ合及一戰ニ事口惜義ナリ向後ヲト
ナシキ振舞スヘシトテ本領如元玉ヘリ
十二月
六月尾州武藤左近兵衛光方江州ニ來テ木
村小隼人ヲ以テ當家ノ欲蒙扶助屋形異事
ナク如本知五百貫ノ地ヲ志賀郡ニテ玉ル
十日甲斐ノ武田大膳大夫晴信ヨリ使節アリ

鷹馬羽一千本ヲ送リ又屋形ヨリ江州坂本關
ノ兼秀カスリタル矢ノ根一千本ヲ送リ玉フ
十五日八幡佐々木ノ宮兩社ノ歳末神樂ヲ
以奉行ハ淺井下野守山岡掃部頭隨兵ナリ
廿一日將軍ヘノ御使節ニ今日黒田日向守
忠頼ヲ遣サル
廿五日勢州ノ國司ヨリ使節有田村權守ト
云者ナリ屋形對面ナシ是御下心ノ有故ナリ

十六文十一

天文十一年三ツノエ寅年

正月タカ至祈禱而カサ長祿カサ十山カサ...

朔日ヨリ十五日ニテ國人旗頭長臣ノ面々シク

出仕ノ次第日記ニ不及戴乎ス

十六日屋形并義賢義昌佐々木官社參作法キサシ

例年ノコトクイナシ...

十七日旗頭四十六人殘ラス彼御社ニ參マシ

十九日國沙門祝等如例年出仕屋形哥仙カシ

ノ間ニテ御對面出世ノ僧ニハ御盃アリサカソキ

廿四日比良ノ愛岩へ屋形登山供奉ノ面々ヒラ

旗頭八人近習ノ宿老計ナリキンシ

廿九日屋形上洛義賢義昌八同日午刻發足ホウ

嘉永二年八月十日ヨシ...

十日屋形并箕作義賢八幡山義昌御歸城キ

十四日永原左近太夫細賢卒ス此人ハ當家ナカ

ノ度流ナリ殊屋形ノ惠メクミフカキ人ナリ依之テ

去ル五年ヨリ將軍ノ近習ニ召加ヘ玉フキンシ

十九日今日ハ當家ノ御先祖九代ノ家嫡源カサ

三秀義公ノ忌日ナリ依之屋形當國長命寺
大破ノヨシ聞召悉造營スヘキノヨシ今日戸
田石見守頼秀津田藤五郎成宗兩人ニ被
仰付
右長命寺ト申ハ佐々木九代ノ嫡領源秀義
壽永三年八月十九日伊豆國畠山進士家助
兵衛尉家能家清入道平氏爲味方捨籠慶秀
義義清相共平氏爲追討責戰而終彼凶徒九
十余人討之雖然爲彼等依老屈秀義被討テ

時七十三歳右兵衛佐頼朝甚悲玉ヒ源平無
雙之第一功被定没後近江權守ニ任レ頼朝自
号長命寺當國岡嶋ト云嶋山ニ一字ノ寺ヲ建
立シ長命寺崇メ玉フ依之岡嶋ヲ今ニ至テ
長命寺トハ申スト彼寺ノ記ニアリ此秀義
公ヨリ佐々木御家ハ次第ニ繁昌シテ今屋
形ニ至ルニテ流々ニ別ル、凡八十余家ナリ
三月
三日旗頭ノ面々如例御礼アリ今夕片桐若

狹守實時屋形ヲ吾館ニ入奉リ夜入ニテ御
一門ヲ集メ曲水ノ宴ヲナス屋形甚悦シ玉ヒ
片桐ヲ召シ汝多年醫術ヲヲモシロカルヨシ
其聞アリ吾炎帝ノ圖ヲエカキテイダサント
ノ玉ヒテ被遊其繪讚ニ曰

炎帝之圖并讚

無寧自知 百草滋味 植穀興醫 偉哉聖慈
片桐是ヲ頭戴シ不斜喜悅シテ箕浦道休ト
云真儒ノ人ニ委ク裏書ヲイタサセテ吾家

寶十十九ヶル

十一日若州ノ粟屋民部大輔頼宗ヨリ使節
アリ夢窓國師尊氏將軍へノ十三箇條教訓
狀下テ彼國師ノ自筆ノ一卷ヲ進献ス其卷
ノ詞曰

一慈悲正直思案堪忍和合爲城油斷爲敵

事

合釋軍旅以女...

一尊敬佛神三寶修造寺社可守家運事

一隨錄施物知人間欲可恐天道事

一 不亂主君父母禮義可存忠孝之志事
 一 學文書忍賢仁可入忠言正路事
 一 專合戰軍法以夜繼日引馬道可嗜事
 一 不隔貴賤上下可愛衆生輩事
 一 書札禮義已下已不存者可敬他人事
 一 忘自思不忘他思不成慢心思事
 一 讒言思惟兩舌科疑可任天命事
 一 憐民百姓愁糺臣下猥可致憲法沙汰事
 一 弁生死無常因果道理可念後生菩提事

一 於貪欲妬欲殺生欲衣食欲勝負欲見聞
 欲等樂可行中道事
 屋形右此卷ヲ御ラン有テ寔ニ其沙門ニ對
 面スル心地コソスレ甚秘藏シ玉ヒ又彼國師
 ハ傳聞タルヨリハスクレ玉フ人哉尊氏卿尊敬
 尤ナリ當時カヤウノ僧有ヘシトモ不覺見ト
 ナリ世次第ニニコリヌル事ヲナケキ玉フカ
 當將軍萬雅意ニ渡リ玉ヘハ子カウ所ノ物ナリ
 トテ目賀多右馬頭ヲ御使節トシテ公方ヘ

進獻シ玉フ是ハ御先祖秘シ玉フ物ナリシヲ
伺ノ時ニカ紛失シ侍ルヲ今義實尋出シテ
侍ルナリ不斷御先祖ノ御形見共思召テ照
覧可然存候トテ進獻シ玉フカ後ニ此事ヲ
傳聞ニ將軍雅意ニヲワレケレハ此ハ全ク夢
窓ノ諫書ニテハナシ近江義實ノ作テ吾ヲイ
サムルナルヘレトテサシモニ國師ノ自筆ノ一卷
ヲ箱底ニ納メトリ出シ玉フ事ナキトソ實ニ
ウタテレキ事也ト江州ニテモキユヘ申アヘリ

十九日伊豆ノ北條左京太夫氏康ノ方ヨリ
使節アリ松田大膳ト云者ナリ關東紙五十
竿進獻ス屋形使節ニアイ玉ハス八幡山ノ義
昌ニ仰ケルハ北條ヨリノ進物コソ其國ニ
有ル物ナレハトテモ駭クテ却テ其將ノ心根
思ヒヤラルレト仰セ玉フ義昌トカクノ御返
答ニ不及ニ進藤山城守申上ルハ北條家ノ
系矢カヤウニコソ侍ルラメト申ス此義ニ付
テ屋形古例ヲ引キ玉フ昔日山名伊豆守時

氏カ方ヨリ細川武藏守頼之カ方へ使節ヲ
以テ音信ヲナスニ山名領國ノ物トテ熟せル
棟光箱ヲ送ル細川是ヲ請テ此人ノ心行ヲ
ハカリテ曰ク天性實ナキ人ナリ一戰ニ及
ンテハカルニ可レ安ト云フニハタシテ山名明德ニ
逆心シテ内野ニシテ一戰ニ及フ細川公方ノ
郷方ニ有テ山名ト對陣ス細川一家ニ向テ
下知スルニ彼熟柿ノ事ヲ思ヒ出テ元來山名
ハ實ナキ者ナレハ今日ノ合戰ハカルニイテ

安ニ居將ヲハ居ヲ以テハカルトイヘハトテ
其日ノ合戰ニ細川三百ノ勢ヲ以テ備ヲ三
ツ子ワケ山名カ勢ヲイサマセ一千ノ勢ヲ
横鎧ニ入テ即時ニ山名ヲノリクツシ侍ルト
云今此條ノ進物是ニ不異トノ玉フテ此條ノ
使節ヲカヘサル奉計如神兼光
後ニ目加多豊後守實三ヲ使節トシテ氏康
へ彼進物ニ江州坂本ニシテスラセラル閔
兼秀カ鎧百本ヲ送り玉フ

樂濟四月

百本

法

生

...

八日比良山ニテ如來誕生會ヲ行ヒ玉フ堅
田大津武佐三箇所ニシテ八木三千石ヲ非
人ニ施行シ玉フ奉行政所職ノ内安元十兵
衛尉山下久兵衛尉苗麻五郎兵衛尉大奉行
青地駿河守

十九日今日未ノ日ナリ内々屋形思ヒ立玉フ
摩利支天ノ宮ヲ觀音城ノ南ノ峯ニ造營ス
ヘキヨシ京極ノ三郎高吉ニ仰付ラハ

北六日二條晴良公觀音城ニ來移シ玉フ屋形
甚賞シ玉フ十余日ニテ當城ニ滞留屋形晴
良公へ人丸ノホノクト明石ノ浦ノ哥昔日ヨリ
説々ニ語り傳へ侍ル實説ヲ兼リ度ヨシヲ
望玉フ晴良公則書傳へ玉フ其秘傳ニ曰ク

大言。 〇 礼發心。 〇 礼修行。 〇 礼
菩提 盤若德空諦

〇 礼涅槃。 〇 礼方便

ヲ嫁ニケル科ナリ、内方田十共備掃氏、
六月、具公方御手、
三日夜井口五郎八兼春カ家ヨリ赤キ鼬敷
多走出池田孫太郎實政カ屋敷ニ入消失又
四日井口五郎八カ屋敷ト池田孫太郎カ屋
敷ヨリ卯刻ヨリ午刻ニテ白キ氣有テ其家
見ス
十日彼兩人カ館ヨリ一度ニ火出テ南風ツ
ヨクナリ後ニ大名小路ヘカ、リ十日ノ午刻

ヨリ十一日ノ卯刻ニテ旗頭ノ屋敷三十二
間町屋七十五町寺社十四焼失ス
十五日公方義晴公上野小五郎ヲ自ラ討玉
フ公義二箇所御手ヲ負ヒ玉フ是ハ公方千ヤウ
アノ童子ナリ彼ノ小五郎ニ組スル童子
三人アリ依之公方御不覺アリ
廿一日高野山文珠院江州ニ來テ觀音城ヘ
出仕屋敷目果ノ義ヲ問玉フ文珠院先弘法
ノ釋ヲ以テ答申ヘキトテ

九夫盲善惡 不信有因果 但見眼前利
 何知地獄火 無羞造十惡 空論有神我
 執著愛三界 誰脫煩惱鎖
 此後種々屋形ト法問アリ文多キ故ニ不記
 七月
 四日當四月被仰付摩利支尊天ノ宮中五箇
 所ノ宮門ニテ不殘成就ノヨシ奉行京極三郎
 高吉言上ス依之明五日未刻宮移シノ義ヲ
 定メ玉フ

八日九條植通公觀音城ニ來移三日滯留
 九日植通公今度勸請ノ摩利支天人宮ニ屋
 形御同道ニテ社向植通公拜殿ニヲワシテ
 仰ラレ玉フ我管領ノ弓矢コトフキニ此拜
 殿ニ賢聖ノ名書玉フヘキトテ即四方ノ板
 ニ筆ヲ染メ玉フ

東一間 東三間 西一間 西三間

馬周 管仲 李勣 桓榮
 房玄齡 鄧禹 虞世南 鄭玄

杜如晦

子產

杜預

蘓武

魏徵

蕭何

張華

倪寬

東二間

東四間

西二間

西四間

諸葛亮

伊尹

羊祜

董仲舒

遽伯玉

傅說

揚雄

文翁

張子房

太公望

陳寔

賈誼

第五倫

仲山甫

班固

叔孫通

右八紫震殿賢聖ノ障子ヲ植通公其一、コ、

二書シ侍ルナリ屋形甚悦シ玉ノ日

十五日當國保良庄ニ一社ヲ建立奉行和田

日向守貞長

彼社ハ人王四十七代廢帝天平寶字五年十

月十日都ヲ江州保良庄ニウツサレシ舊

都ナリ然ルヲ屋形今遠キ舊跡ヲタ、サレ

示如此

廿日此保良舊都營作ノ義當今聞召サレテ

今日勅使保良ニ來者一通勅書アリ

當社永爲勅願靈社寔先主并與之地也宜

奉祈皇家永久者天氣如此仍執達如件

天文十一年七月十九日 左大弁

近江國保良社權宿称

廿八日畠山民部少輔義宗卒行年四十三

八月

三日河内國若江城主若江河内守實高力方

ヨリ菅兼相ノ被遊シ短尺トテ今日屋形ニ

獻又其哥ニ

流行我ハ三ツトナリ又トモ君ニカラミトナリテ留

右此哥ハ菅家昌泰四年正月廿日左遷ノ時

此一首ヲ讀テ寛平法皇へ奉リ玉フ一首ナリ

屋形甚自愛有テ是ハ天下無雙物ナリトテ

二條晴良ニ申委細コトハリ書ヲ加ヘテ佐

々木ノ御社ニ納メ玉フ

八日梵釋寺大破ニ付テ建立奉行蒲生忠三郎

右此寺ハ延暦五年三月桓武天皇勅シテ

創江州ニ梵釋寺ノ縁記ニ有コトハリ長

ニ依テ不記

十日今川義元一織田備後守信秀ト三洲小
豆坂ニテ合戦今川義元四万余織田二千五
百相引ニスルノ由東國へツカハサル忍ノ山伏
今日江州ニ歸來テ言上人
十四日將軍不例依之屋形今日上洛同十八
日江東ニ歸城
廿一日細川晴元ト赤松兵部少輔義村ト今
日公方殿下ニヲヒテ坐論ノ義有テ既喧嘩
ニ及フ細川晴元四箇所手ヲ負赤松義村五

箇所手ヲ負依之公方ノ御所大キニサワキ
京中上下アワテ合
右ノ義ニ依テ細川赤松ノ一門分テ既ニ合
戦ニ及ハントス將軍ヨリ武田右馬頭信世ヲ
上使トテ江州ニ來リ急上洛スヘキヨシナリ
屋形近習ニ有合面々百三十余騎ヲ引率シ
テ今宵子刻ニ上洛旗頭四十六人ノ面々聞
カテニ上洛ス御一門ノ御方ニハ京極計上
洛殘リハ國ニ留リ玉フ

廿四日細川赤松兩家ノ爭論屋形中媒ニテ
兩家和睦ス
廿七日屋形江東ニ歸城四十六人
慶應九月
十一日蟹カ坂ノ城主山中丹後守秀國カ方
ヨリ言上ス其旨ハ今月八日鈴麻山ノ谷通
ヨリ勢州ノ惡徒江州上田野ニ人在家ヲ燒
立民財ヲウハイ取ルノ處ニ蟹カ坂城中ヨリ
聞カケニ走り出惡徒五十三人召捕リ又然

ルニ北勢州ノ百姓等一揆ヲ發シ近日當城工
寄ヘキヨシ其間ニ候國司此義不知シテハ有ル
ニシキナレハ一定多勢ノ義有ヘシト言上ス
依之今日夜ニ入高嶋ノ面々朽木平井新庄
横山田中永田白井高嶋越中守高賢ヲ大將
トシテ五千騎蟹カ坂ノ城エツカハサル如案
國司恕テ北伊勢ノ城主共十二人大將ニ木
造尾張守具國ニ一万二千ノ勢ヲサレソヘ
蟹カ坂ヘ鈴麻谷道ノ難所ヲ二手ニ分ケテ

十四日ノ夜寄來ル山中丹後守秀國高嶋ノ
面々ニ申ケルハ此所敵味方共ニ難所多キ
所ナレハ敵ヲ城下ニテ引寄一度ニ討テ出
テハ味方ニ大利有ヘシト云ヘハ高嶋ノ面々
所ノ案内山中サシツ可然トテ此義ニ同ス
敵如案卯ノ上刻ニハ蟹カ坂城東北ノ山ア
イ平野ニ陣ヲスヘ三軍ニ備ヘ合戰當國ノ勢
相圖ノ時ヲ定蟹カ坂ノ城山四町余ノ坂ヲ
一面ニ責下リ敵ヲ谷道ニ追立十五日卯ノ

刻ヨリ合戰初テ同日申刻ニ至テ首數二千
三百四十二大將分ノ首五ツ桑名十兵衛尉
神部丹後守飯高三川守仁木左馬允河曲民
部築ナリ
是ヨリ國司十屋形弓矢ヲトリ初ル合戰ナリ
十六日蟹カ坂ノ面々ヨリ觀音城工書付ヲ以テ
言上ス

今十五日卯ヨリ申ニ至テ合戰初テ味方大
利ヲ得敵過半討シ生殘所ノ敵辛苦ニテ引

千退夕討取所ノ目錄

一首四百三十五 山中丹後守秀國手取之

一首三百五十三 朽木民部少輔植綱手取之

一首三百二十四 平井伊豫守貞秀手取之

一首四百二十一 高嶋越中守高賢手取之

一首二百十二 新庄伊賀守實秀手取之

一首二百十八 横山佐渡守高長手取之

一首百三十一 田中幡磨守實氏手取之

一首百二十五 永田左近右衛門尉秀宗手取之

一首百二十三 白井豊後守時秀手取之

此外大將分

一 乘名十兵衛尉 北伊勢城主也

一 朽木家礼上林五郎八太刀下

一 神部丹後守 同断 國司從弟也

一 田中家礼田井十兵衛太刀下

一 飯高三川守 同断 國司甥也

一 白井家礼安田三之丞鑓下

一 仁木左馬允 同断 勢州軍奉行 今度一方大將成向

山中家礼中嶋權内組討

一河曲民部少輔カククミシフセウ 同斷同断 國司甥也

高嶋越中守扈從千世松太刀下

右目録ノ旨屋取一見玉七目加多取部少

輔頼秀ヲ蟹力坂ヘツカハシ高嶋ノ面々歸陣

スヘキヨシナリ山中ニハ蟹力坂城中堅夕制

法ヲ可申付ヨシニテ高嶋衆ハ觀音城ヘ

歸陣ニシ 十七日進藤武藏守盛高後藤角内左衛門

尉實俊二千三百騎ニテ蟹力坂ヲサヘノ夕メニ

今巳刻彼地ヘツカハサル是ハ山中丹後守手

勢微小ニ依テナリ

十八日今度蟹力坂合戰ニ手柄ノ面々賞地

ヲ行ヒ玉フ高嶋八人ノ内家礼共ニ屋取自

筆ノ感狀ヲ下玉フ

一朽木家礼上林五郎八ナカノ 中村庄ヲ玉ル

一田中家礼田井十兵衛タナカ 山田庄ヲ玉ル

一白井家礼安田三之介シライ 坂卷庄ヲ玉ル

一山中家礼中嶋權内カミイノミ上泉庄ヲ玉ル

一高嶋越中守扈從和田千世松チヨウノ十四歳中枝ノ

一庄ヲ玉リテ御近習ニ召加ヘ玉フ

右何モ屋形自筆ノ感狀ヲ玉ル中ニモ和田

千世松幼少トシテ一手ノ大將ヲ討取事

前代未聞ノ勝事也ト寔タクヒナキ感狀ヲ玉ル

北四日江州四十六人ノ旗頭ノ面々七手組

ノ面々へ屋形四目結ノ紋ヲ玉ル是ハ一戰ノ

時旗頭ノ驗ト見ヘタリ但屋形代々ノ功ヲ

賞せラルカ是ヨリ江州東西南北ノ旗頭衆自

分ノ旗ノカニラニ四目結ヲツケ其下ニ各々

家々ノ紋ヲツクルナリ

新山十月馬頭義昌大跡ノ

十一日屋形ヨリ箕作義賢八幡山義昌兩人

ヲ大將トシテ四十六人ノ旗頭ノ内廿三人差

添其勢二万三千余騎ニ手ニワケ北伊勢へ

差向ケラル屋形ノ玉フ、國司去月蟹カ坂一

戰ニ數將ウタセ鬱憤ヲ含ンテ重テハカリ

コトヲ廻シ當國ニ向シ事兼テ存知セ凡處ナリ
實ヲハカリテ先ヲ後ニスト云軍法ハ是ナリ
急キ向フヘシトナリ
十四日今度勢州へ向フ面々不殘勢揃ヒテ
今日觀音城ヨリニ手ニ成テ出陣先陣ハ八
幡山ノ左馬頭義目ヲ大將トシテ馬淵橋崎
三井池田平井永原三雲種村建部澤田山崎
片桐ノ旗頭其勢一万余騎ハ君カ畠越ニ北
伊勢ニ責入後陣ニハ箕作ノ義賢ヲ大將ト

ニテ曹地蒲生京極山岡大野木礪野久徳淺
井木村乾宮部ノ旗頭ヲ差添其勢一万三千
余八田越ヲカ、リ北伊勢ニ責入
十七日屋形宇野作内左衛門尉貞清ニ弓者
三百ヲ被仰付今日蟹坂ヘツカハサル是ハ鈴
麻ヨリ横アイニ勢州ヘカ、ルヘシトナリ
同日申刻義目ヨリ飛脚到來ス注進ノ次第
ハ昨十六日北伊勢十八箇所取出共ヲ追討
亡太田城主田村右近ヲ打取其ヨリ朝明郡

一圓ニ打隨へ明日ヨリ朝明郡へトリカ、
ヨシ告來ル國司二万ニテ鈴鹿郡ニテ出張
仕ノヨシナリ勢州ニテ兩將御働ノ次第重テ
改可記
廿日兩將義賢義昌ヨリ告來ル北伊勢兩郡
ヲ責アセ城十八箇所落城味方働ノ品々注
進
廿一日蟹坂ヨリ注進ス昨廿日鈴鹿谷ノ堂
ヨリ勢州關ト申所ニ入テ火ヲ放シ關ノ城

ヲ燒クツシ敵三百余討取味方百五十余討
死人田込ヲ告來ル
廿二日義賢義昌ヨリ注進十九日ヨリ國司
ト合戦ニト川刃ニ味方粉骨ノ働ヲナシ敵
七百三指余討取雖然尾州ヨリ加勢ノ舟勢
州庄浦ニ著舟スルノヨシヲ兼ル然ラハ
味方無勢ニテハ叶カクシ後詰ノ勢ヲ玉フ
ヘキヨシヲ告ク屋形後詰ヲ頼マハ必其軍亂
ルヘシ軍ハ勢ノ多少ニ不限トテ加勢カラヤ

中玉ハス
廿四日勢州ヨリ注進朝明川ヲヘタテ國司
對陣スルハヨシカ告來ル
廿五日將軍ヨリ上野形部大輔晴長上使ト
比百觀音城ニ來著是ハ今度勢州ト合戰ノ
義ニ依テナリ同日三條大納言勅使トシテ
國人爭論ヲ治ヘキヨシナリ
廿六日三條大納言上野形部大輔御兩使鈴
麻越ニ勢州ニ越ラル勅意上意ノ旨ヲ申合

兩方ノ弓矢ヲ留玉フハ幡山ノ義昌皇家ノ
御爲ニナル弓矢何ソ勅定ナレハトテ留ヘ
キ事ハトテ尚手痛ク責退ク義賢制シテ
軍ヲ止ム
廿七日京都ノ仰ニ依テ勢州ノ合戰止リ國
司ハ居城ヘ退キ江州勢後陣ノ大將義賢ハ
今日勢州ヲ立テ江東ニ歸陣先陣ノ義昌ハ
猶勢州ニ留リ比伊勢二郡ノ制法ヲ夕、サル
廿九日京都ノ仰ニテ比伊勢二郡ハ江州ノ

下知ニナレ勢州近州和睦ノ義ヲ被仰付是ヨリ義昌ヲハ北伊勢ニサシヲカル伊勢義昌ト江州ニテ云ハ是ナリ
十一月
四日今年勢州度々ノ合戦ニ忠功ノ面々ニ北伊勢ニイテ賞地ヲ下シ玉フ此内屋形ノ御感狀ヲ下シ玉ル面々五十七人此外働ノ面々ニハ義賢義昌ノ兩將其働ノ品々ニ依テ感狀ヲ玉フ

五日新庄伊賀守卒行年五十八屋形甚惜ニ玉フ後家ニ今枝ノ庄ヲ下シ玉ヒ伊賀守息方千世幼少ナレハ家礼守立成人ノ後尚其器ニ當ラハ父カコトク旗頭ニ可任ヨシヲ仰下ス今後家ニ一所ヲ玉フ事ハ伊賀守多年ノ忠義ヲ没後ニテ賞シ玉フト見ヘタリ
十八日百濟寺炎上彼寺ノ本尊觀音三日ヨリ已前ニ堂守三人ニ不思義ノ夢想ラシメシ玉フ事毎夜ナリ依テ三人ノ坊主本堂ニ

參テ此事ヲ語合處ニ天火降下テ即時ニ炎
上ス此ヨシ彼僧カ許ヨリ觀音城へ言上又
廿一日將軍ヨリ山門無動寺相應和尚ノ堂
ヲ造營ノ義ヲ今日山門工訖へ玉フ將軍ノ
御母公相應和尚ノ說法ヲ聽聞ト夢ニ見玉
ヒテヨリ當將軍義輝公ヲ懷胎シ玉フヨシ
ナリ依之今此義ニ及フカ
十二月
七日屋形今日宇祢野ニ鷹鳥狩シテ丹頂ノ

羈ヲトル野村主水正貞兼ヲ御使トシテ將
軍ニ獻シ玉フ將軍甚悦シ玉ヒテ一首ノ和
哥ヲツラ子玉フ

ヲサミレル御代ニハ猶モ近江路ノ

宇祢野ノ羈ノ幾代へ又ラシ

十五日歲末ノ使節トシテ落合相摸守貞爲

ヲ上セラル將軍落合ニ御對面有テ長義ノ

御太刀ヲ玉ル此太刀ハ下松ト云女ノ墓ヨ

リ出タル太刀ナリシヲ山州西岡ニ或僧彼

賞^{イサヒ}シ玉^{タマ}ヲ彼^カ權^{ケン}内^{ウチ}堀^{ホリ}ニ語^{カト}テ云^{イハ}伊^イ豆^豆ノ北^{キタ}條^{ジョウ}氏^シ
康^{ヤス}近^ミ年^{トシ}晴^{ハル}氏^シト不^フ和^ワニ成^{ナリ}テヤ、モスレハ國^{クニ}以^モ
サカヒテ論^{ロン}ス晴^{ハル}氏^シノ執^{シツ}權^{ケン}上^{ノリ}叔^{シツ}憲^{ケン}政^{セイ}ヨロツ
雅^カ意^イ多^タケレハ晴^{ハル}氏^シノ旗^{ハタ}下^ノ心^{ココロ}々^々ニシテ國^{クニ}中^{ナカ}
アヤウキヨシヲ語^{カト}ル

廿五日佐々木ノ御社ニヲヒテ護摩アリ山
門惠心院僧正一七日ノ間修セラレ奉^{マツル}行^{ユク}堀^{ホリ}
佐渡守貞成宇多三右衛門尉光國等十リ
廿六日屋形上洛定頼義昌同上洛廿九日江

城ニ歸城シ玉ヲ結大^{オホ}神^{カミ}祇^シ園^{ヰン}宇^ウ子^コ十一^ト敷^シ北^{キタ}入^イ

三月和田丹波守清俊力館ニ屋形并御一門
ノ面々移リ玉ヲ笠掛ノ御遊アリ山寺^{サンジ}跡^{アト}十三
十四日京極ノ居城炎上ス屋形ヨリ木村源
五綱方ヲツカハサル此日國中サワク事アリ
何クトナク雜説アリテ京極ノ城へ淺井下
野守延心シテ既責寄テ京極ノ館ニ火ヲカ
クルノヨシヲ云觀音城ト京極ノ館トノ間

人馬人行違事殿ニ焼終テ後何ノ沙汰モナ
シ矢嶋大光院ト云易者此事ヲ占テ曰ク甚
不吉ノ兆ナリト
三月
三日佐々木ノ御社祭礼例年ノ如ク不及記
十四日下坂本焼亡ス町三十二町寺社十三
箇所
十九日箕浦越後守高光卒行年五十八
廿五日志那形部大輔清胤卒七十一歳此人

ハ關東ノ宰人ニテ當國ニ住ス千葉ノ嫡流
タリシカ庶流ノタメニ國ヲ去リ玉フ人ナリ
屋形常ニアワレシ玉フ人ナリ
十月
朔日屋形今日四十六人ノ旗頭ヲ觀音城ニ
召サレテ仰下スノ條ハ江州郡々ニ有之山
伏陰陽師等ヲ諸國ヘツカハシ其國々ノ有
増ヲ聞ニ自國他國ノ善惡ヲ知リ其國々ノ
風俗ヲ知リ國主人政法ヲコノ口三乱國ノ時

大キニ利アル事多シ誓人詞ヲ加ヘ彼等カ
下行ニ一村々々ヲ分チアタヘ春秋ニ祈禱
入領トナツテ一村ヨリ何ホト定メ國
令ニツカハシ申ヘキヨシヲ下知ニ玉フ依
芝郡々ニテ改メ山伏千二百人陰陽師百八
十余人今月ヨリ國々ニ分チツカハサル
廿五日青山左近勝重ト田上甲斐守實國ト
觀音城ニシテ及喧嘩雙方少々手負入ナリ
廿九日澤田兵部少輔重宗卒ス六十三歳

五月

五日佐々木ノ御社祭礼蒲生郡野須郡兩郡
ヨリクラベ馬アリ
十日伊庭ニヨイテ旗頭中馬揃アリ屋敷并
御一門伊庭入道徳然力館ニ移リ玉ヒ今十
日ヨリ廿日マテ十一日ノ間彼入道館ニ屋
敷行移レテ馬ヲ見玉フ
廿三日屋敷志賀郡ニ移リ玉フ錦織源五郎
十云者錦ノ袋ニ新羅三郎ヨリノ系圖ヲ入

一通ヲ以テ言上ス彼源五郎口上ニ云ク曾
父錦織源太郎御先考ノ御不審ヲ蒙リ終山
門ニ入相果又既三代土民ノ中ニシテ空ク
日月ヲ送り錦織カ家ヲ失ナハシ事口惜キ
ヨシヲ言上ス道ノ傍ニ卧テ紅涙ヲ流ス屋
形彼首ニカケタル御當家代々ノ謚文ヲ見
主ヒテ忠義ノ功ヲ思召テ當坐ニ一通玉リ
今田ノ庄ヲ玉リ江州浦々ノア三奉行ニ仰
付ラハル

六月

七日志賀郡雄琴大明神ヲ營作スヘキヨシ
和田加賀守貞通ニ仰付ラハル

十八日坂田佐度守ニ仰テ江北下坂ノ鍛冶
六人ニ大小ノ太刀ヲ打セラル切ノ好ヲ數
百ソロヘ國ノ城主ニ玉ル高作ノ太刀ヲ不
用軍用ヲ專ニスヘキヨシヲ仰出サル

右刀鍛冶ノ内八郎ト云鍛冶後ニ上手ニ成リ
屋形是ヲ甚惠三玉フ

七月

四日永原安藝守信頼ノ館へ屋形行移し玉フ
永原屋形ヲ賞スル所ノ床ニ足利直義ノ方
ヨリ獨清軒玄惠法印末期ノ時藥ヲ包テ上
書ニ

ナカラヘテトヘトソ思フ君ナラテ今ハ伴フ人モナキ世ニ
ト書レシ物求テ名將ノ自筆ナリ世ニタクヒ
ナキ物トテ年來秘藏シケルヲ床ニ掛置キ
ケレハ屋形甚自愛シ玉ヒテ此時玄惠法印

ヨリ返シ有レト昔日語傳ルナリ吾彼法印
ノ作レ詩ヲ書テ永原カ家ノ二幅一對ニ世ニ
トテ書玉フ

余感君一日恩 招我百年魂 扶病坐床下
披書拭淚痕

是ハ彼法印末期ノ時作りテ返詩ナリ今
屋形筆ヲ染ラヌ永原甚悦シテ家門ノ重
寶トシケリ

廿日大原伊豫入道春綱卒ス八十九歳

廿日八月甲辰人畜春臨卒入八十氏歲
十二日天ニ白氣西東ニ通りテ五筋アリ午
刻ヨリ申ノ刻ニ消失ス
十九日大洪水江州所々ノ堤キレ民屋多ク
流ル野須郡ノ内戸田ノ庄水ニ流ル民屋百
余間海ニ入ル
廿三日石山ヨリ言上ス今卯上刻觀音堂鳴
動スルヲヨシ依之彼堂ニテ普門品一日二千
部ツ、七日讀ヘキヨシヲ言上ス經申諸僧ノ

イトナ三寺門ノ中ニテ成難キノ間八木等
ヲ下行シ玉フヘキヨシナリ舊記ニ彼堂鳴動
スル事開基ヨリ七度何モ一七日ノ讀經ニ
テ國家安全ノヨシヲ言上ス依テ望所ノ領
米ヲ志賀郡ノ政所ニテツカハサル
十六九月
八日北伊勢ヨリ言上ス所々ノ城大破ニ及
フ普請ノ人夫ヲ江州ヨリ玉フヘキヨシナリ
彼地郡内少シキ故ナリ屋形何トカ思ヒ給ヒ

亦カ望所ノ人夫ヲツカハサレス
十五日江州八幡ノ鳥井ヲ造營スヘキヨシヲ
建部大藏大夫清秀ニ被仰付
十六日昨日仰出シ玉フ所ノ鳥井ヲ銅ニテ
以ムヘキヨシヲ清秀ニ仰下ス
廿二日河内ヨリ言上ス若江ノ堀ニ大龜
アリ足六足ノヨシヲ告來ル屋形多賀日向
守ヲ彼所ニツカハシ京都へ上セ將軍ノ御所
ニ入ヘキノヨシナリニテ

十月

十四日平井河内守頼氏カ長男孫三郎
三井石見守時高ト爭論ニ及ンテ三井ヲ孫
三郎討テ山門ニ入ノヨシ高嶋ノ面々ヨリ
言上ス
十八日高野瀬負季頓死ノヨシヲ言上ス
十一月
三日京都ヨリ上使アリ沼田形部少輔光定
江東ニ來著今日登城是ハ將軍來ル十二月

竹生嶋御參詣ノヨシヲ仰下ス屋形ヨリ寒
氣時節不可然ノヨシヲ申サル此義ニ依テ
將軍彼嶋ニ渡リ玉フ事延引ス

十九日洛東五條河原ノ橋ヲ造直スヘキヨシ
將軍ヨリ丹波河内ノ兩國ノ守護ニ仰付ラレ
廿四日上京真如堂焼上ス天火ノヨシナリ

十二月

十三日石田形部左衛門尉光賢年來非義事
アリテ今日觀音城へ召寄テ討せ玉フ

十四日石田力妻子ヲ京極ノ方へアツケ玉フ

廿四日比良ノ愛宕へ後藤民部少輔盛國ヲ

屋形御代參ニツカハサル

廿五日箕作ノ義賢へ南郡ノ内廿四箇所ノ

領ヲツカハサル此日八幡山人義昌へ志賀郡

堅田和介ノ庄ヲ送リ玉フ

天文十三甲辰年

正月

朔日ヨリ十五日ニ至テ例年ノコトク不及又ヨリハヒルズニ記

同日屋形上洛廿二日江城ニ歸坐キサ

廿二日屋形ノ御前コサキ御懷胎ノ義ニ依テ内々ウチウチ

八面々ニ祝ノ義ヲ玉フ未旗頭等ヨリハ其

義ナシ義ナシハ陰ニシテハムサシ

廿四日二月...

十日江州ニ初テ早舟ト云船ヲ造ラセラル

是軍ノ夕メト也舟ノナリナシカシラ劍頭ナリ

十五日阿彌陀寺ノ如來頭ヨリ光明アリ依

之近國群ヲナス

廿七日高田安房守實方ト淺井下野守境ノ

論ニ及ニテ淺井カ家人廿五人理非ヲ不分

高田カ百姓ヲ打ツ此科トシテ淺井閉門ス

彼家人廿五人禁罰スヘキヨシ三上但馬守

兼綱ニ仰付玉フ

三日三月...

三日佐々木御社祭礼例年ノコトク今日觀
音城ニテ屋形并御一門曲水ノ宴アリ
廿日屋形諸將ニ命シテ當年ヨリ年貢等想
ニテ國內ニテ取アツカウ處ノ舛先規ヨリ
有來ル舛ニニ合ヘラシテ新舛ヲ可用民ヲ
惠ノ隨一ナリ其外軍用利多トテ武佐ノ御
藏ニテ下司衆究メテ舛ヲ出ス是ヨリ江州
子取アツカウ舛ヲ武佐舛ト云
武運四月

四日佐々木官臨時ノ祭礼アリ是ハ御曹子
武運長父ノ御タメナリ
十五日伊庭ニテ犬追物アリ品々ノ義ハ此
役ヲ勅ラルノ旗頭ノ家々ニ委クアレハ日
記ニハ世ス
廿八日屋形岡山ニ遊フ大鮎ヲトル前代未聞
五月
五日佐々木御社祭礼屋形社參御一門并國
ノ旗頭ノ面々不殘社參ス

十五日洛陽永觀堂炎失ノヨシ種村左馬頭
高輝ヨリ江東工注進ス彼寺ノ當住ハ屋形
ノ一族十リ

廿五日ノ夜箕作義賢事ノ子細ニ依テ近習
ノ谷左近賢長ヲ害セラル依之箕作ノ館大
ニサワク彼者與カノ族多ニ依テ如此

廿六日後藤實方ヲ屋形ヨリ義賢ヘツカハ
サハ是ハ去夜谷左近ヲ討レシ事ノ旨ヲ制
山玉スノヨシナリ

六月

三日柵尾ノ上人江東ニ來ル觀音城へ出山
屋形甚賞シ玉フ惠光寺ニテ彼上人法談アリ
十九日屋形當家ノ庶流ヲ改ラレ金泥ノ卷
ニ入ラル國々ノ流々多キニ依テ奉行ニ永
原安藝ノ守ヲ被仰付

七月

三日屋形上洛近習ノ面々計供奉ス
七日屋形ノ御前七夕ヲ祭り玉フ舊記ヲ

勘へ徳光寺上人觀音城ニ登城ス
九日大洪水陸地舟ヲヤルカ如シ江州所々
ノ川水九合ニ及フ水ニヲホル所多シ

廿一日御先孝ノ御吊アリ比良山ニヲイテ
七日前ヨリ讀經アリ奉行山中丹後守實持

八月

十一日越前朝倉彈正忠時景ヨリ使節有山

上美作守ト云者也越州紙百束ヲ献せラル

十五日當國八幡宮へ屋形并御一門方社參

廿一日濃州ノ屋形土岐頼ヨリ長井伊豫

守ヲ以テ申越サルノ條ハ箕作ノ彈正少弼

定頼御息女ヲ嫁スヘキヨシ内々將軍ノ御

下知アルニヨリ來月三日ハ吉日ナレハ箕作

ノ御館へ輿ムカヘノヨシ使節ナリ屋形長井

伊豫守頼冬ヲ奥ノ黒殿ニテ召寄ラレ輿入

ノ次第ヲ具ニ仰含メラル終屋形他國ノ使

節ヲ奥ノ黒殿ニテ召入ラル事ナレ是御縁

者ノ義ニ依テカ

九月

朔日濃州ノ範頼へ御息女ヨシメムカへノ爲トシテ
今日進藤山城守目加多相摸守長俊兩人御
子ノ衆二百人内見ノ六人ヲツカハサル
二日土岐ヨリ御息女迎へノ夕メニ濃州立正
寺ニテ高嶋越中守實綱ヲツカハサル
三日土岐工御息女申刻箕作ヨリ輿入五箇
目ノ礼法記ニ不及濃州女佐ノ臣ニ明知但
馬守秀國江州ニ來ル

十八日伊庭三川守頼輝野村備中守長冬山
田十兵衛尉大野介十郎澤田兵部少輔重宗
大津主膳正清宗青地米女正時綱片桐左近
兵衛尉等ヲツカハシ玉フ

十月

十一日伊賀國河合安房守實之當九日卒ス
ルノヨシ告來ル屋形年來ノ忠功ヲ感シ甚悲
三玉フ此人ハ屋形既ニ一字ヲ玉ルホトノ
人ナレハ右ノ如シ

廿五日乾權之頭吉武ヨシタケ植田ウエタ民部タタ少輔サウ實之サキ
上ウヘ喧嘩ケンカニ及およフ雙方ツウホウノ家人ケミ數人タビ手負テネアリ永ナガ
原ハラ大炊頭オホクヒカサ實冬サキフユヲ檢使ケンシニツカハシツカハシ雙方ツウホウヲ召メ
籠コメ玉タマフ

十一月

九日長濱ナガハマ形部カゲベ信實シノサキ七十五歲シヒレ頌死シレノヨシ言コト
上ウヘス屋形ヤカテ甚タ此人コノヒトヲヲシム信實シノサキハ甲斐カハ國武クニタケ
田タ信虎シノタケノ伯父オヤジタリシカ信虎シノタケ不義フキヲイサム
ルニ忠言チユウゴン耳ミミニサカヒテケレハ信實シノサキ甲州カハシマヲ走ハシ

出屋形イデヤカテヲ頼タカニテ數年スネン江州エチウニ住ヂセラルハニ
屋形ヤカテ憐アハレニ玉タマヒテ江北カハノホ長濱ナガハマノ城シロヲアツケ玉
ス人ヒトナリ
十五日ナハツヒ黒田クロタ大學頭オホナマシ宗綱ムネツナ貞林サダキト云イハ太刀タチヲ屋
形カゲニ獻タテマス作サカハ正宗サウシユナリ此コノ太刀タチハ貞林サダキ房ノ云イハ
沙門サモン山門サンモンニアリシカ此コノ太刀タチヲ以モテ數度スネンド天
狗テウト戰タケフニ天狗テウ後ノチニ此コノ太刀タチヲ取トリテ貞林サダキヲ
殺コロシ彼カノ太刀タチヲハ黒田クロタカ元祖ゲンソ宗清ムネキヨニアタウル
也ナリ代々タビタビ相傳サウデンスル太刀タチナリ屋形ヤカテ不悅フエツシテ家

門ノ寶黒田カ家ニ有テコソトテ返シ玉フ
黒田ハ屋形ノ御先祖ヨリ分シ出タル家ナ
ルカ先年舟岡山合戦ノ時不忠ノ義ニ依テ
既ニ黒田ノ家ヲ失ナワント世シニ屋形公
方ヘウツタヘ黒田ハ吾家ノ庶流ナリ家ヲ
絶断セシ事不便ナリトテ達テ申請テ一家
ヲ立テ玉フ依之家門ノ重寶ヲ進獻セラル
者也

廿四日屋形御宿願ノ旨アリテ後藤但馬守

ヲ愛宕山ヘ御代參ス後藤彼御山ニ登テ神
前ニ參三礼ヲナスニ虚空ヨリ扇ヲ一本後
藤カ頭上ニ落ス後藤是ヲ取テ見ルニ一首
ノ和哥アリ

唯タノメ君カ願ハ近江路ヤ

ト書付ケリ後藤是ヲ屋形進獻ス屋形見玉

ヒテ即坐ニ

四ツノ國マテヲサシレル御代

此御願ハ屋形毎度當公方ノ雅意ニ渡リ

玉ヲヲ諫言シ玉ヒレカ世ノ治久ヲ祈リ玉
トハ此句ニテ思知リ又
十二月

十五日勢州ノ國司ヨリ使節アリ歳末ノ祝
礼トナリ先年一戰ノ後夕カヒニ御和睦ナ
レトモ終使節ハナシ今度初テ國司ヨリ木
造左衛門佐具氏ヲ江東へ越ス
十八日川曲又一郎ヲ今日壹岐守ニナサレ
尤一日午刻ニ黒雲北ニ現シ青雲南ニ現シ

黄雲西ニ現シ東ハ白雲現ス前代未聞ノ事
ナリ將軍家土御門ノ方へ勘文ヲ尋ラレケル
ニ台トシテ曰ク

北ノ黒雲ハ可也青雲ハ東ナルへキニ南ニ
現スルハ不吉ナリ黄雲ハ土ナルニ西ニ現
スルハ不吉ナリ西ハ白色カ本色ナリ東ノ
白雲又不吉ナリ東ハ青色カ本色ナリ寂不
吉ナリ北方計本色ニテ三方ニ本色ヲ失フ
事大キニ天下大事也ト台ス將軍ノ曰ク將

カ身ニ不善アラハ天ノツケヲ見ルニ不及
善アラハ又天ノ吉兆ヲカウフルニ不及トテ
一首及詠セラル東ハ青島氏本島ナリ

天下誰カシラナン吾ナラステ善モ不善モ已カ心ニ

此外官親王家ノ詠哥共アリ記ハトマナ

此ハ黒雲ハ巾巾清雲ハ東ナハ平山南ニ

運給御門代相ノ

江源武鑑卷第三終



